

Mランド丹波ささ山校 ニュース Vol. 14

平成20年5月1日発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上569 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940
発行責任者 井 隆 正 義 HP <http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

Mランドウォッキング

■このたびMランドの社旗が新たにできました。朝、玄関前の掲揚ポールに国旗、理念(やわらぎ)の旗とともに掲揚します。



陽光さわやか、風にたなびく社旗

日本では、社旗や紋章は全体的に発想が単純で、「トヨタはT」「ホンダはH」「マツダはM」といったように各社の頭文字を图案化したものが多い。

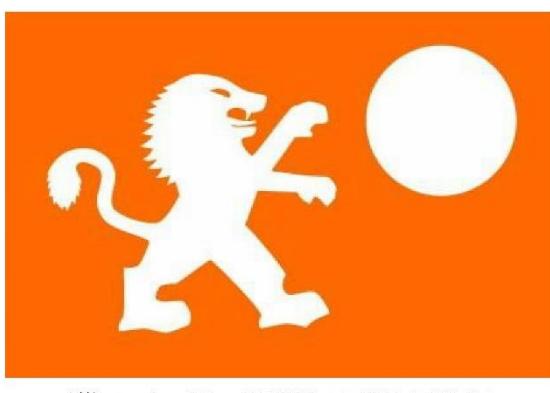
この社旗についての小河社長の思いをご紹介します。

Mランドは一九九七年、ロビーに掲げた「Mランド王国宣言」において、「能力主義」から「思想主義」へ、「物の経営」から「心の経営」へと進化したのが始まりである。

■ 永遠のロマン
Mランド八つの心

一、私は、私がつくったMランドのこの国の価値に自信を持ちます。

二、私は、永遠のロマン



百獣の王、M・LION ! FOR EVER

三、私は、自らを装うようにMランドを装い、この舞台の上で最高の演技を心がけます。

四、私は、ゲストを身内と思い、ゲストの心に明るい灯を点し、ソウルメイトを讃えます。

五、私は、人間の可能性を信じ、百点と九十九点には天地の開きがあることを大事に断言することを避け、心に響く対話を徹します。

六、私は、Mランドがたくさんのお客様をお迎えできるのは、常にお客様に感謝をし続けているからであることを忘れません。

七、私は、新しいことに好奇心を持ち、キラリと輝いて、ゲストのためにも成長することを使命と心得ます。

八、私は、いぶし銀のような粹な国、永遠のロマンの国「Mランド」を追求します。



形が整うと、心も整ってくる



相手の立場でということを伺いました

入社式並びに新人研修

■四月十日、コガワグループ各社の新入社員をMランド益田校（島根県）のコンベンションホールにて、入社式が行なわれました。

篠山より長谷川・柴田の二名が出席、小河社長の訓示に緊張しました。面持ちで気持ちを新たにしました。

二、私は、自らを装うようにMランドを装い、この舞台の上で最高の演技を心がけます。

三、私は、ゲストを身内と思い、ゲストの心に明るい灯を点し、ソウルメイトを讃えます。

四、私は、人間の可能性を信じ、百点と九十九点には天地の開きがあることを大事に断言することを避け、心に響く対話を徹します。

五、私は、Mランドがたくさんのお客様をお迎えできるのは、常にお客様に感謝をし続けているからであることを忘れません。



途中チェックポイントでのゴミ拾い

研修二日目午後より四十二キロというマラソンと同じ距離を歩く課題に挑戦しました。十時間以上をメンバー互いに励ました。あいながら全員が完歩しました。

篠山に帰つて報告するふたりは、見るからに精悍な顔つきに変わつており、とてもたのもしく感じました。

ご指導いただきましたスタッフの皆様、ありがとうございました。

仲間の素晴らしいと挨拶の大切さを学びました。この研修を生かして実行していきます。

(柴田 忠大)

つぎのことを強く意識して行動します。

- ① 挨拶
- ② トイレ掃除
- ③ 忍耐力と連帯感

(長谷川 泰之)

シルバー・ドライビング スクール開催



最後に講評を申し上げ、安全運転を誓いました

篠山城にお花見

■春の全国交通安全運動の期間中に啓蒙イベンツとして、四月十五日、篠山警察署と共催で六十歳以上の方を対象にシルバー・ドライビングスクールを開催しました。

篠山市内の交通事情と事故例の紹介と教習車を使つての実車指導に四十名の参加があり、熱心に受講していただきました。

■合宿での免許取得にせつかく篠山にお越しいただいたので、この街の今を楽しんでもらおうと篠山城にお花見に出かけました。



アルコールなしでも仲間なら盛り上がる

富士登山回想

営業課長 宮林 修



富士登山の経験者たちの間では「富士

山に登らない馬鹿、二度登る馬鹿」ということばが流布しているそうです。これは、富士山の厳しさを表わしたことばで、疲労、寒さ、高山病など一度体験した者は二度と登りたくない」と思うようですが、来光を頂上で迎えるため、深夜に出発する登山者は体力を消耗しがちで余計に疲労を感じやすいが、しかし毎年のように登る人もまた多いのも現実であります。

みなさんは富士山に登られたことがありますか？ 私は、二年前にMランド益田校の富士登山研修に篠山校から他二名と共に参加させていただきました。ただ富士山に登ることが目的ではなく、ゴミ拾いながら、また下山する途中の七合目のトイレ掃除が目的でした。今思えば、私の思い出の中での研修ほど深く

心に刻まれ、また一生の思い出として残るものはないと思っています。

楽しかったことや嬉しかったことも確かに残りますが、あの時のあの苦しさ、厳しさ、辛さは忘れようとして忘れられないものになってしまいます。

こんな山、登る山じやない…遠くから見て鑑賞するものだ…「二度と登りたくない」と思いながら仮眠場所である八合目を目指してひたすら登り続けました。仮眠場所を真夜中に出発しましたが、あいにくの悪天候、最悪の条件、寒さと疲労がのしかかり足下も見えない状況で、ようやく必死で頂上にたどり着いた時の達成感は、優勝した者にだけ与えられる金メダルのようなものかもしれません。

最後になりましたが、一緒に登った仲間と、勇気を与えてくれたMランド益田校の仲間に感謝申しあげます。

真紅の花々よ
耐え抜いて
鮮烈に咲け

編集後記

心に言ひ表せない嬉しさと勇気を与えてくれました。

この研修で得たものは、仲間を大切にする思いと、仲間を大切にする思いと、あきらめない忍耐力、やればできる底力を身につけ、体験させてくれたものと感謝しています。この経験をこれから仕事に活かし、ゲストと共に卒業する喜びと一緒に味わっていければと思ひ日々がんばっています。

ただ、心残りは悪天候のため頂上でご来光が見られなかったことです。機会があれば『二度登る馬鹿』になり、日本一の山から仲間と一緒に朝日を見ることが私の願いです。

最後になりましたが、一緒に登った仲間と、勇気を与えてくれたMランド益田校の仲間に感謝申しあげます。

クラスの担任だった数学教師が新入学のはなむけにと、この詩を大書して掲げてくれたものでした。

その恩師は、奇しくも三年間通して私の担任となり、私たちの卒業とともに突然教職を辞めてしまわれました。「ぼくは勉強を教えることは好きで得意だが、人を教え導くということにはむいてない」とのことばを残して、三十代で転職。当時はとてもショックでした。六十歳を過ぎた今も学習塾を自ら経営し、講師としてもご活躍と伝聞します。

三十有余年が経つても今も心に残るこの詩は、恩師の真っ正直な生き方と共に私を支え、励ましてくれます。善き出逢いを…。(文)



7合目トイレ掃除の様子（左側が本人）